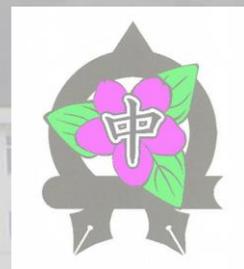


# 協働



## ふれあい月間×ありがとう

校長 原 善哉

東京都は、6月・11月・2月を「ふれあい月間」と位置付け、社会全体で児童・生徒の健全育成・いじめ防止を図る取組みを行っています。本校も日々、生徒達が安心な学校生活を送れるように取り組めます。そして今月のコーチングテーマは「感謝する」です。ふれあい月間にふさわしいテーマです。

「いじめは絶対に許さない」という姿勢と指導を進めると共に、「いじめや悪口によって、私たちのすてきな生活を壊したくない」と一人一人が感じられる学校生活や社会を作りたい。この「ありがとう」という言葉と気持ちで満たされた学校生活や社会は、必ず穏やかで思いやりのあふれる、すてきな毎日を形作るでしょう。

本校の2年生教室には、「良いところ」「感謝したいこと」を探し、お互いに感謝のメッセージを書いて交換したカードがたくさん貼り付けられた掲示物があります。一つ一つを読んでいくと、心が温かくなります。「良いところ」探しは、まず取り組むことが大切です。そして続けていく（練習する）と習慣となり、良いところを「探す」のではなく自然と「気付ける」人になっていきます。中学生と取り組むと、初めは「消しゴム拾ってくれた」とか「定規を貸してくれた」といった気付きですが、3週間、一ヶ月と続けて、たくさん、たくさん見付ける練習を重ねると「いつも味方になってくれてありがとう」とか「話をしっかり聞いてくれるところが良いところだと思います」など、お互いの内面の部分まで自然に気付いて言い合えるようになっていきます。そしてその成果は生徒だけでなく共に取り組む教師（大人）も生徒達（子ども達）の良さに気付く力が向上していくことを実感として知っています。

スポーツの世界でも、感謝の気持ちでメンタルの強化と競技力の向上のため「必ず毎日ありがとうと年齢の数だけ言う」という取組を選手たちのルーチンワークにしている実業団もあるのです。

体育大会閉会式では実行委員長が全校生徒に向けて「皆さんに“ありがとう”と伝えたい」と語りました。この言葉を言えたリーダーシップと言わせたフォロワーシップに心から感動しました。奥多摩中学校の生徒は最高です。改めて「ありがとう」という言葉のもつ力を実感せずにはられません。

つらいことや思い通りにならないことは日々あると思います。しかし「ありがとう」の言葉で毎日を満たし共にそれらを越えていきたい。この思いを最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

### 6月「感謝する」～「人に与えたものは自分に返ってくる」ことを理解する～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
両親に「ありがとう」を言う 仲間に「ありがとう」を言う 先生に「ありがとう」を言う	生徒へ「ありがとう」を言う 周りの人へ「ありがとう」を言う 授業で感謝の大切さについて生徒に伝える	子どもに「ありがとう」を言う 家族で「ありがとう」を言い合う 子どもと感謝の意味を話し合う